

志村 華絵（大学院保健福祉学研究科兼務 保健福祉学部兼務）

2. 学術論文

- 1) 原著論文, 共著者, 渡邊 恵, 長島俊輔, 玉川 淳, 加藤木真史, 岸川 学, 樋口良子, 池田公平, 藤田峰子, 長山洋史, 福岡梨紗, 志村華絵, 佐々木杏子, 森 朱輝, 高橋恭子, 五味郁子, 水戸優子, 2024年10月, 日本語, 保健福祉学部における多職種連携の推進を目的とした「教育用模擬電子カルテ」の導入と教育効果 : パイロットスタディ, 査読あり, 保健医療福祉連携誌, 2024 Vol. 17 (2), 127-137, 10.32217/jaipe.17.2_146
- 2) 原著論文, 共著者, 渡邊 恵, 長島俊輔, 玉川 淳, 加藤木真史, 福岡梨紗, 佐々木杏子, 池田公平, 樋口良子, 岸川 学, 森朱輝, 長山洋史, 藤田峰子, 志村華絵, 五味郁子, 高橋恭子, 水戸優子, 2025年03月, 日本語, 「教育用模擬電子カルテ」を活用したIPEの実装と教育効果—紙カルテと電子カルテの事例提供方法の比較に基づく検証—, 査読あり, ヒューマンサービス学会誌, 2024 Vol. 2, 44-52

4. 学会発表等

- 1) 口頭, 筆頭者・責任者, 志村華絵, 高齢者と孫世代の子どもとの交流が高齢者の心身に及ぼす効果 : 世代間交流を行う社会福祉法人への質問紙調査の中間報告, 日本世代間交流学会第15回全国大会, 2024年12月

5. 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 米国内科学会(American College of Physicians; ACP)日本支部, Physicians' Well-being Committee委員, 2022年7月～, 医師のバーンアウト予防に関する活動に関わっており, ACP日本支部会員の医師のバーンアウトに関する質問紙調査研究を行っている. 調査結果を論文投稿した (in press). 医師対象のセミナーも実施し, 講師を務めた.
- 2) 日本内科学会, 認定総合内科専門医, 2012年12月～, 2024年度に任期を更新した.
- 3) 日本内科学会, 認定内科医, 2008年9月～, 2025年度に任期を更新した.
- 4) 日本内科学会, 認定指導医, 2013年9月～
- 5) 日本内科学会, 内科専門医 病歴評価委員, 2013年2月～
- 6) 日本血液学会, 血液指導医, 2016年4月～
- 7) 日本血液学会, 血液専門医, 2011年4月～
- 8) 日本がん治療認定医機構, がん治療認定医, 2010年4月～
- 9) 日本輸血・細胞治療学会, 認定医, 2022年1月～
- 10) 日本医師会, 産業医, 2010年5月～
- 11) 日本救急医学会, ICLS (Immediate Cardiac Life Support) インストラクター, 2007年8月～
- 12) 都道府県, 難病指定医, 2014年12月～

- 13) 株式会社日本フローラルアート（東京カルチャーセンター）、乳幼児食指導士, 2021年8月～
- 14) 日本世代間交流学会誌, 査読委員, 2024年12月～

6. 社会貢献

- 1) 神奈川県労働衛生福祉協会 非常勤医師, 2021年11月～
- 2) 立教女学院中学高等学校 生徒及び教職員の内科健診業務, 2023年5月～

8. 学会等での活動

- 1) 米国内科学会 (American College of Physicians; ACP) 日本支部 年次総会2024 Core Clinicalセッション 座長, 2024年6月23日
- 2) 米国内科学会(American College of Physicians;ACP)日本支部 オンラインセミナー講師, 2025年3月13日, Physicians' Well-being Committee (PWC) 主催オンラインセミナー「実践的な指導医との対話形式による相談会」のチームリーダーとして準備を進め, 当日は講師を務めた.

9. 学内教育活動

1) 学部

- ・看護学科2年生 疾病と治療 I (オムニバスの講義) 外部講師依頼, 2024年4月～2024年7月, 臨床の最先端で活躍している医師・医学研究者(各科目の専門医・指導医かつ研究者)に講義を依頼し, 学生の聴講の機会を作った.
- ・2025年度 栄養学科2年「臨床医学概論」及び看護学科2年「病態生理学」の外部講師調整, 2025年1月～2025年3月, 知人で臨床の最先端で活躍している医師・医学研究者(各科目の専門医・指導医かつ研究者)10名に講義を依頼し, 講義の割り振りと事務手続きを行った. また自ら講義を引き受け, 講座の趣旨に沿うよう, 講座全体の講義を組み替えた.
- ・日本プライマリ・ケア連合学会の総合医育成プログラムの講義への反映, 2024年4月～2025年3月, 2022年から受講を続け, 規定単位を満たして本年度修了(修了番号第2024-4235号)した. 内容を各分野の最新の情報を講義に反映させた.
- ・講義で学生のプレゼンテーションの実施, 2024年4月～2025年3月, 学生にモチベーションを維持し興味を持ってもらえるよう, 講義にアクティブラーニングを取り入れ, プレゼンテーションを行わせた. 教科書の知識のみならず実際の臨床現場での経験を講義内容に含めるようにした.
- ・国家試験出題内容の講義への反映, 2024年4月～2025年3月, 講義内容には, 当該分野の過去の国家試験出題内容を反映させた.
- ・小テストの実施, 2024年4月～2025年3月, 重要事項を中心に講義終了5分を小テストにし, 次回講義で内容の解説をして復習に役立てやすいように工夫した.

- ・リアクションペーパーの活用, 2024年4月～2025年3月, 講義ごとにリアクションペーパーで学生の理解度を把握するよう心掛けた. 寄せられた質問には, 毎週講義内で回答した.
- ・成人看護学(慢性期)Ⅱ 侵襲性のある看護技術実習時の有事対応, 2024年4月～2024年7月, 看護学科からの依頼
- ・全学部共通1年生 保健医療福祉論Ⅰ 講義, 2024年4月, サヴァティカルで不在の講師の代理で講義をした.
- ・リハ学科2年生生理学実習及び栄養学科2年生生体機能学実験の実習環境の整備, 2024年4月～2025年3月, 水銀血圧計の使用禁止に伴い, 一人一台使用できるように血圧計を購入した. また, 酸素飽和度測定計を新たに購入し, 実習内容を充実させた. 聴診器も古くなったため購入した.
- ・リハ学科2年 内科学ⅠⅡ新たな講義資料の作成, 2024年4月～2025年3月, 教科書を変更し, それに沿った講義内容となるよう合計30コマ分の講義資料を大幅に改訂した.

2) 博士前期課程

2025年度 看護学科2年「病態生理学」の外部講師調整, 2025年1月～2025年3月, 知人で臨床の最先端で活躍している医師・医学研究者(各科目の専門医・指導医かつ研究者)6名に講義を依頼し, 講義の割り振りと事務手続きを行った. また自らが外部講師の講義後の双方向性の振り返り講義を引き受け, 講座の趣旨に沿うよう, 講座全体の講義を組み替えた.

10. 学内各種委員会活動

- 1) 時間割編成ワーキンググループ委員, 2022年4月～2024年5月
- 2) 図書委員会, 2024年4月～2024年4月, 図書館書籍の除籍基準の改訂に関わった.

11. 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 若手研究, 代表者, 志村華絵, 幼老複合施設における世代間交流が高齢者に与える医学的効果の検討, 3,640千円, 2018年04月, 2025年03月, 産前産後の休暇, 育児休業の取得に伴う補助事業期間延長及び新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う補助事業期間延長を申請した. 今年度, 老年科専門医(1631名)及び世代間交流を行う社会福祉法人(737法人)への質問紙調査を実施し, それぞれ論文投稿中である. 社会福祉法人への視察を行った.

15. その他

- 1) 横浜創英大学 非常勤講師, 看護学部2年生「症候論Ⅰ」を担当した.
- 2) ヒューマンサービス総合演習における, 多職種連携の授業への模擬電子カルテの活用, 2022年度学長推薦研究(看護学科 渡邊恵先生)の共同研究者として, 看護学科で使用していた模擬電子カルテを多職種連携の授業に活用する試みに関わり, 他学科と協同して4年次生の「ヒューマンサービス総合演習」で事例提供ツールとして模擬電子カルテを活用して

いる。従来よりあった症例を医学的に検証し、全症例について大幅な改定を行った。2024年度も同研究を継続した。

- 3) 地域在住高齢者におけるビタミンB1栄養状態と食生活状況の関連」(令和6年3月～) 五味郁子, 志村華絵, 福岡梨沙, 医学的アドバイザー, 血液検査実施要員として研究に参加している。
- 4) 一般社団法人家庭まち創り政策ラボの国際シンポジウムへの準備, 一般社団法人家庭まち創り政策ラボと, 政策提言などに関する意見交換をしている。2025年5月に外務省や文部科学省等が後援する国際シンポジウムに登壇することが決定しており, 準備を進めている。
- 5) ロート製薬株式会社, 国立大学法人滋賀大学, 明治ホールディングス株式会社, 株式会社イブケア他との多機関共同研究「デジタル世代間交流による社会的処方への予備的効果検証」, スタートアップに際し, 医学的アドバイスをした。
- 6) リハ学科 持病のある学生の臨床実習への参加可否の相談対応, リハ学科教員からの実習にあたっての相談に対応した。
- 7) 共同研究プロジェクト(国際会議でのワークショップ開催と書籍発刊の準備), 多国籍のメンバーと, 2025年6月に米国で開催されるthe Generations United 23rd Global Intergenerational Conferenceにおいてワークショップを主催予定で, 国際的な世代間交流の用語解説集を発刊するための準備を進めている。